

第 65 期同窓会入会式報告

第 65 期ご卒業の皆さん、おめでとうございます。

本日、岐阜東高等学校 5 階講堂において、第 65 期生 167 名の岐阜東高等学校同窓会への入会式を行いました。今年はコロナ禍も明け、これまで通りの卒業生全員出席による入会式となりました。やはり、全員揃っての入会式は、晴れ晴れとしたモノが感じ取られます。

清水治幸（13 期卒）委員長の司会により、坂井至通（12 期卒）会長の挨拶から始まりました。

坂井会長から「岐阜東高等学校の校歌」について、その制定過程の話がありました。「ひんがしの空～明けわたり～」で始まるわが校の校歌は、何時、どのような経緯で作られたのでしょうか。岐阜東高等学校（当時は岐東高校）創立時には何とか間に合うようにと先生方は大変なご努力を積み重ねられました。校歌の作詞作曲依頼は、当時岐阜大学学芸学部を卒業されたばかりの長谷川匡一先生（当時 23 歳、第 4 代校長、国語科）が、大学時代の恩師である、国文学科教授の各務虎雄先生（当時 65 歳）に作詞を、同じく音楽科教授の内本実先生（当時 60 歳）に作曲を、それぞれご依頼できたのが幸運でした。

各務虎雄先生は、松尾芭蕉の蕉門十哲のひとり各務支考（しこう）から数えて道統三十七世でした。美濃派（獅子門）と言われ、俳諧では最も古い 350 年

の歴史を持っています。現在、道統は四十一世です。一方で、内本実先生は、第二次世界大戦前はコロンビアレコードの専属歌手でした。戦後は、名古屋のNHK 女声合唱団の番組「花のコーラス」の指揮者、大垣音楽短期大学の学長を務められました。皆さんにも、この栄えある校歌を「胸を張って歌い継いで」いただきたいと思います。

続いて、江刺潤（13期卒）副会長から「令和5年度同窓会会則」の説明がありました。特に、同窓生達との連携を図る同窓会クラブ（ゴルフクラブ、学校史研究会、幸福師匠おーえん会、議員さんと珈琲タイム）がありますので、是非皆さんにも参加していただきたいと思います。

また、坂井会長から、母校の栄誉を高めていただきました、2名の方に「同窓会賞と記念品」をお贈りしました。同窓会の運営に参加して同窓会諸行事の連絡をお願いする12名のクラス幹事の方々には「クラス幹事委任状」をひとり一人にお渡ししました。そして第65期入会者全員に「卒業記念品」をお渡ししました。第一期卒業生が巣立ってから65年が過ぎ、今日では同窓生も18,000人を超えています。皆さんにも、今後の同窓会発展にご尽力頂きますようお願いし閉会としました。

令和6年2月29日 岐阜東高等学校同窓会 役員会



第六五期 同窓会入会式

式次第

- 一. 開式の辞
- 一. 会長挨拶
- 一. 会則の説明
- 一. 同窓会賞授与
- 一. クラス幹事任命
- 一. 卒業記念品授与
- 一. 閉式の辞



清水委員長の司会で開会

坂井会長の校歌について



同窓会賞の授与

クラス幹事委任の授与



校歌

一、東の空 明けわたり

金華の嶺に 風清し

心一つにむつびつつ

直く朗らに 身をきたえ

真理の道を 踏み分けん

若人われら ここに幸あり

二、流れ行く水 いや遠く

長良の川に 月澄めり

磨く知性の 曇りなく

高き理想の 一筋に

文化の光 世に挙げん

若人われら 永久に榮あり

(記録および写真 書記長 福手一義 10 期卒)